

自由民主党ワンヘルス推進議員連盟総会開催される

第2回自由民主党ワンヘルス推進議員連盟総会が令和5年11月7日(火)、衆議院第1議員会館多目的ホールにおいて開催された。ここに概要を紹介する。

自由民主党ワンヘルス推進議員連盟総会 議事概要

- 日時：令和5年11月7日(火) 16:00～17:00
- 場所：衆議院第1議員会館 多目的ホール
- 出席者：

[議員]

最高顧問：麻生太郎 議員
顧問：森 英介 議員
森山 裕 議員
会長：林 芳正 議員
会長代理：松山政司 議員
副会長：古川俊治 議員
橋本 岳 議員
大家敏志 議員
中田 宏 議員
幹事長：山際大志郎 議員
幹事長代理：井上貴博 議員
副幹事長：藤丸 敏 議員
山田美樹 議員
羽生田 俊 議員
幹事：山本啓介 議員
田中昌史 議員
事務局長：古賀 篤 議員
所属議員：鬼木 誠 議員
中川貴元 議員
長谷川淳二 議員

[農林水産省]

消費・安全局 熊谷法夫 審議官
畜水産安全管理課 星野和久 課長
技術会議事務局 研究調整課 羽子田知子 課長

[厚生労働省]

健康・生活衛生局 感染症対策部 佐々木昌弘 部長
食品監視安全課 森田剛史 課長
感染症対策部感染症対策課 感染症情報管理室
横田栄一 室長
感染症対策部感染症対策課 ワンヘルス班
森吉美樹 班長

[環境省]

自然環境局 堀上 勝 審議官
水・大気環境局 前田光哉 審議官

[外務省]

国際協力専門機関室 佐藤仁美 室長

[日本医師会]

釜菴 敏 常任理事
南 陵志 主幹
深澤義直 主事役

[日本獣医師会]

藏内勇夫 会長
鳥海 弘 副会長
境 政人 専務理事
伏見啓二 参与

[日本獣医師連盟]

村中志朗 委員長
中川清志 委員長代行
小松泰史 副委員長
篠原公七 副委員長
井上亮一 幹事長
高橋三男 幹事
埼玉県獣医師連盟 鴻巣 泰 理事
千葉県獣医師連盟 市川陽一朗 会長
東京都獣医師会 森 伸子 事務局長代理
横関由則 ワンヘルス担当
川崎市獣医師会 田村通夫 会長
木村真治 副会長
神奈川県獣医師政治連盟 下山哲生 委員長
岡山県獣医師連盟 中村金一 委員長
兵庫県獣医師会 長谷川哲也 会長

4 議題：

- 役員人事について
- 関係省庁から対応状況等説明
- 関係団体から挨拶・要請
- 意見交換

5 概要：

【発起人挨拶】

麻生議員：ワンヘルス議員連盟については日本医師会と日本獣医師会が学術連携を締結したうえで、双方から設立の要望があり今年の3月に発足し、今日で2回目となる。このあと役員人事について議論がなされるが、全国の医師会と獣医師会で連携し、このワンヘルスを推進



挨拶をする麻生太郎 自由民主党
ワンヘルス推進議員連盟最高顧問



挨拶をする林 芳正 自由民主党
ワンヘルス推進議員連盟会長

できるよう、支援いただきたい。今般の新型コロナウイルス感染症の流行でわれわれは人獣共通感染症の重要性を認識したが、人類にとってスペイン風邪以来100年ぶりのパンデミックとなった。このことも踏まえ、今年5月に開催された広島サミットでワンヘルスアプローチによる国際保健上の脅威への対応が提言され、また6月に閣議決定された政府の骨太方針にも記載された。この取組はアジア、世界において取組む必要がある。日本医師会 横倉名誉会長は世界医師会（WMA）会長、日本獣医師会 藏内会長もアジア獣医師会連合（FAVA）会長になられ、世界のワンヘルスの機運を引っ張っていただいている。現に今年4月の世界獣医師大会（WVAC）でも藏内会長がワンヘルス特別賞を受賞しており、次は世界獣医師会（WVA）会長という声も上がっているとのことである。いずれにしても医師会と獣医師会が連携し、この場の関係者で協力し、国内のワンヘルス体制を整え、さらに世界に発信していきたい。本日はよろしく願いたい。

林議員：令和5年3月に開催されたワンヘルス推進議員連盟設立総会后、5月にコロナが5類感染症に引き下げになり普段の生活に戻ってきたが、次に備えていくべきである。長崎のG7保健大臣会合でもG7ワンヘルス・ハイレベル専門家会合を開催することが打ち出された。しっかり応援していきたい。

【議 事】

(1) 役員人事について

案のとおり了承された。

(2) 関係省庁から対応状況等説明

各省から配布資料に沿って説明された。

(3) 関係団体から挨拶・要請

日本医師会・松本会長 代読 釜落常任理事：人獣共通感染症は、WHOで把握されているものだけでも200種以上ある。人と動物の健康は相互に関連しており、医学・獣医学が連携した取組が重要。医師会からは、日本版CDCのワンヘルスに関する取組について要望したい。2012年10月に世界医師会（WMA）と世界獣医師会（WVA）は協力関係構築の覚書、日本医師会と日本獣医師会は2013年11月に学術協力の協定を締結しており、その後全国の地方医師会、地方獣医師会でも協定締結した。また、2016年には世界医師会（WMA）と世界獣医師会（WVA）とともに福岡宣言を、2022年にはアジアワンヘルス福岡宣言2022をそれぞれ採択するなど連携を推進してきたところ。この連携を更に推進するとともに、アジア太平洋地域でも連携を高めていくことが重要。引き続きご支援をお願いしたい。本年9月に感染症危機管理統括庁が設置され、日本版CDCが2025年度以降に創設されることとなり、今後感染症等の研究・危機管理・人材育成・国際協力が一体的に行われることとされている。感染症への対応に資する実効ある組織として強化され、新興感染症等への対応が行われるよう支援をお願いしたい。

日本獣医師会・藏内会長：本日は本議員連盟総会を開催いただき感謝。諸先生方には、日頃からわれわれが推進するワンヘルスにご理解いただき厚くお礼申し上げる。先日、マレーシアでアジア獣医師会連合（FAVA）大会に出席した。大会でも、人獣共通感染症はブラックボックスで次に何が来るかわからない一方、アジアはホットスポットであるということがいわれていた。日本医師会、日本獣医師会はすでに連携している。私はアジア獣医師会連合（FAVA）の会長であるし、アジア獣医師会連合（FAVA）とアジア大洋州医師会連合（CMAAO）も連携したいと考えており、来年フィリピンで開催される



要請を行う藏内会長

CMAAO 大会で協定書に合意できる見込みである。世界獣医師大会（WVAC）では「日本ではワンヘルスが政府の骨太の方針に盛り込まれるなどしているが、どうしてそこまでワンヘルスを推進できているのだ」と世界各国から質問された。G7 広島サミットでも提言がなされたことと骨太の方針に入ったという2点は、日本としてワンヘルス推進の事例としてぜひ世界に広めて推進してほしいとの要請を受けて帰ってきた。ワンヘルスの推進には政治と行政の両面からの支えが必要である。これからもお力添え願いたい。

日本獣医師会・境専務理事：要請書ついて説明された。

(4) 意見交換

鬼木議員：2月にイギリスの特使に薬剤耐性（AMR）対策について講義していただいた。また本日の藏内会長のお話からも世界的な危機感の臨場感を感じた。アジアがホットスポットなのはどうしてなのか、感染の中心になるということだと思う。マイクロチップについては、プロジェクトの事務局長をしていたので責任を感じるところもあり、しっかりした取組をしていきたい。獣医師会説明資料の4ページではAMR対策の指摘もある。大変恐ろしいことと思っているが日本はその観点で進んでいて医師会とも連携されているとのこと。畜産動物由来のものが多いと思っていたが、愛玩動物由来のAMRもあるということでもしっかり勉強していきたい。アジアがホットスポットという観点について、もし詳しいことがわかればお教えいただきたい。

日本獣医師会・藏内会長：人がどれだけいるか、生活しているかがパンデミックの発生要因となる。1千万人以上の都市がアジアに多い。感染源はブラックボックスなのでどこにあるかわからないが、過去の傾向からもアジアはホットスポットであるということ。



出席国会議員からの質問に答える藏内会長

藤丸議員：福岡もワンヘルスに力を入れており、地元みやまにワンヘルスセンターを作ってもらったところ。私の意見としては3点。①この議連に内閣府も呼んでもらい、危機管理統括をしてほしい。担当副大臣だった際に話しているのだから、スムーズに進むと思う。②予算がコロナの補正だと、100兆円規模だったが、先ほど説明があった予算は2億～6億という規模であり心もとない。しっかり必要な予算の確保をお願いしたい。③先日飼っている犬が体調を崩し、数名の獣医師に診てもらった。診療の都度一から血液検査等をして、2週間で合計50万かかった。マイクロチップの話を見ても、ペットカードのような共通情報があれば、そんな無駄は省けるのではないかと。環境省 和田次官に2重のデータベースは無駄だという話をしたところ、次官も「環境省で取りまとめればよいだけではないか。個人情報ハードルということなら、犬の情報だけ別にするなど方法はある。」という意見だった。

中田議員：コロナで人獣共通感染症の怖さに気づき始めた国民も多いと思う。まだ気づいてない国民も多く、狂犬病一つとっても、犬の病気としか思っていない人も多い。みな過去の努力の上に現状があることを忘れていない。インフルエンザは豚を介せば人に感染するし、ダニが媒介する感染症で死んでいる人もいる。農研機構に人獣共通感染症研究領域も設置されたことだし、いいタイミングなので、もっと人獣共通感染症のことを国民に知ってもらわないといけない。マイクロチップについては、ペットショップで手続きができず、飼い主にやってもらうしかないというのが大問題。うちも犬を飼っている。ペットショップで登録できないとペットショップ側が売りっぱなしという責任問題もある。売り手目線でも改善してほしい。

【関係省庁からの回答】

古賀議員：ここまでの議論について、役所から簡潔に回答をお願いしたい。鬼木先生のAMRに関するご発言については農水省、藤丸先生と中田先生のマイクロチップに関するご発言については環境省にお願いする。

農水省：鬼木先生ご発言の英国特使の件は承知している。AMR対策は重要と考えており、先ほどご説明したとおり今年10月に動物分野AMRセンターを開設するなど、農水省としての体制も強化している。引き続き厚労省や環境省など関係省庁と連携しながら取り組みたい。

環境省：指定登録機関である日本獣医師会からのご指摘は重いと感じている。これまで、11回ラウンドテーブルを開催して検討してきたところ、個人情報保護や狂犬病予防法との整理がだんだんついてきていると認識しており、今後加速させたい。一方で、どこまでできるかは、個別の課題について獣医師会と連携して整理していきたい。

日本医師会・釜沼理事：AMR関係で、1点だけ申し上げたい。鬼木先生からご発言のあったAMR問題はきわめて重要。厚労省はもちろん、農水省、環境省と一体となって取り組んできた結果、全分野で使用している抗菌物質の総量の把握ができるようになったことは大変な進歩。

日本獣医師会・藏内会長：藤丸議員のご発言③の件は、獣医師会がすすめている「かかりつけ獣医」は不可

欠だと考えているので、ぜひ要請書に書いた部分にもお目通し願いたい。マイクロチップについては、情報が共有されれば、一つの動物病院で実施した診療データがオープンにできる。一方で、個人情報が課題になるが、国と民間がやることをしっかり分けていただければ、実現可能と考える。また、①の本議連に内閣府を呼ぶことについては、危機管理室長 奥田氏が、以前福岡県に向向していたので、ちょうど先日面会したところである。

最後に、古賀議員から決議案に沿って説明がされ、本内容で取りまとめることが出席議員全員によって了承された。決議の内容は各省庁に提示し、回答などについては追って相談することとされた。

【閉会の挨拶】

林議員：今日は活発な議論を感謝。決議に基づき進めてまいりたい。いずれにせよ、コロナという大きな経験を活かして、知見を深めながら議連としても活動していきたいと考えているので、引き続き支援をお願いしたい。

【ま と め】

- 役員人事が案のとおり決定した。
- 関係省庁から取組状況の説明、日本医師会・日本獣医師会の要請の後に意見交換を実施した。
- 議連としての決議がとりまとめられ、今後議連事務局から各省庁に提示される予定。
- 決議に対する回答について、議連事務局から各省庁に相談がなされる予定。

自民党ワンヘルス推進議員連盟 役員名簿

令和5年11月現在

最高顧問	麻生太郎					
顧問	森 英介	田中和徳	金田勝年	森山 裕	宮沢洋一	
会長	林 芳正					
会長代行	武見敬三					
会長代理	松山政司					
副会長	古川俊治	橋本 岳	中西健治	大家敏志	中田 宏	
幹事長	山際大志郎					
幹事長代理	井上貴博					
副幹事長	藤丸 敏	中村裕之	山田賢司	山田美樹	今枝宗一郎	羽生田 俊
	高橋克法					
幹事	藤木真也	畦元将吾	本田顕子	松本 尚	山本啓介	田中昌史
事務局長	古賀 篤					
事務局次長	自見はな子					